

光星無念初戦で涙

男子

白樺学園（北海道）に逆転負け

全国高校バスケットボール
▽男子1回戦
白樺学園（北海道） 68
21231014
八学光星 63
16121520

選手権は26日、東京体育館（3Qからは攻撃のミスから相手に速攻を許し、失点を重ねた。同点で迎えた第4Qは、インサイドの守備で光星が白樺学園（北海道）を押し切り、逆転負けを喫した。柴田は序盤からエースの三川叶羽を中心に、外を使った多彩な攻撃を仕掛け、得点を重ねた。第3Q以降は相手の長身選手に手を焼き、詰め寄られたもの

の、相馬嘉乃、佐々木豆花らが要所で得点を奪い、1点差の接戦を制した。第2日の24日は、男子の残りの1回戦20試合と女子の2回戦16試合の計36試合が行われる。柴田は小林（宮崎）と対戦する。（上村公徳）

初勝利にあと一步、後半粘れず



【男子1回戦・八学光星 白樺学園】第2クォーター、八学光星は今南央斗（左）がシュートを放つ。東京体育館©JBA

焦点

主将。ただ、後半は相手の攻撃プランの変更に対応し切れなかった。低い位置でボールを受けた長身エースがゴール下に向かって、果敢にドライブを仕掛けてきたことで、対人守備の弱さが目立った。加藤誠也は「完全に個人技でやられた。反則もかさんで、フリースローも多く与えてしまった」と悔やんだ。

夏、冬通じて、8度目の全国の舞台だったが、今回も初戦の厚い壁にはね返された。今主将は、フィジカル強化に励んでほしい。個々の力を磨けば、全国でもっと通用するはずだと後輩に「悲願達成」を託した。（上村公徳）

悲願の全国初勝利に一步届かなかった。八学光星は序盤に最大13点のリードを奪いながらも、第3クォーター（Q）以降は相手の猛攻を食い止め切れず、逆転負け。今南央斗主将は「1対1の守備の弱さが表れた。リバウンドでも負けてしまい、速い攻撃につなげられなかった」と悔やんだ。

序盤は作戦が見事にはまった。世代別日本代表候補に選出されている相手の長身エースを警戒し、ボールを渡さないようにインサイドの守備を徹底。攻撃では、二枚看板の今主将 岸川颯太にボールを集め、コートを広く使って圧倒した。「粘り強く守って、展開の速い攻撃に持ち込めた」（今